

2016年9月16日（金）～18日（日）

唐松岳(2,696m)・五龍岳(2,814m)②

17日 唐松岳、五龍岳

～Report by 吉松～

結局、八方池山荘の泊り客は我々4人を含めてたった10人だけだった。こんなゆったりした山荘宿泊はめったになく、お陰でぐっすりと眠ることが出来た。

今日は八方尾根をのんびり歩いて唐松岳頂上山荘に至り、そこから空身で唐松岳(2,696m)に登る予定である。その後、頂上山荘から牛首の難所を通って五竜山荘には2時過ぎに入る計画。

どうやら天気は午後3時位から崩れ始めるようなので、雨に遭うかどうかが何とも微妙なところであった。

二日目（17日 土曜日 曇り のち 雨）



八方池山荘の朝食は5時から。
日の出にはまだ早い。



広い食堂（写真下）で二組だけの朝食だ。
混んだ山小屋に慣れているので、一寸寂しい。しかし、食事はなかなか結構でした。



5時半過ぎに日の出を迎えた。
雲が多くて青空は期待できないが登山にはまずまずの天気だ。
予報では午後3時を過ぎたころから雨模様になるようだ。



5時50分、山荘玄関で写真に納まってから出発した。



右前方に目をやれば、白馬鎧ヶ岳(2903m)、柄子岳(2812m)、白馬岳(2932m)が良く見える。(中央左の尖った山から順に右へ)



左前方には、鹿島槍ヶ岳南峰(2889m)、北峰(2842m)の2峰(U字形の山)も望める。そして写真右奥の最も高く見えている山が今回の登山で目指す山である五龍岳(2814m)。



今日は歩きやすい木道コースを選んだ。



木道が終わったところで小休止。
左の建物は公衆トイレだ。天気さえよければこの辺りまでは一般の観光客も散策コースとして登って来られるのであろう。トイレも綺麗に整備されている。



流石に富士山は日本一高い山だ。
遙か南にその特徴ある姿を見せていた。
左は八ヶ岳 (中央が編笠山)



小休止場所から 10 分ほど歩くと八方池に着く。





風があまりなくて、水面に波が立っていない。水面に映る白馬三山をバックに記念写真に納まった。



7時半に八方池を後にした。
ここからは八方尾根をゆっくりと登ってゆく。



八方尾根の樹林は面白い。
八方池辺りまで森林限界を超えたところに植わるハイマツ帯であったが、暫くするとダケカンバなどもある樹林帶に再び入っていった。
土質の影響とのことだ。

まだ紅葉には早すぎるようだが、登山道の所々に色づいた葉や実が目立ってきた。



カエデ

ワレモコウ（ハッポウワレモコウ）

ウラジロナナカマド



赤い実が沢山ついたナナカマドをバックに一枚。

長雨の恵みか、登山道わきに変わったキノコもあった。



ダケカンバ林を抜けて、またハイマツ帯に入った。丸山ケルンを過ぎれば、唐松岳頂上山荘までもうひと踏ん張りだ。



（丸山ケルン）



なだらかな八方尾根登山道で、唯一の急峻な岩場にかかる木橋。



木橋を渡って10分もしたら唐松岳頂上山荘が見えてきた。



写真は唐松岳頂上山荘全貌。

しっかりした作りの山小屋だ。建築費用が高かったのか、トイレ使用、食堂休憩などにもそれなりにお金が必要だ。

暫し休憩した後、空身になって唐松岳に向かった。



唐松岳山頂までゴロゴロした岩は多いが、さほど大変な登りでは無い。

20分で唐松岳山頂(2696m)に着いた。雲が多く青空も出てはいなかったが、山頂からは周囲の山が良く見えた。



これから登ろうとしている五竜岳。
そして、遠く五竜岳の右肩辺りの鋭く尖った山は槍ヶ岳(3180m)だ。

集合写真（下）中央の尖った山は、岡部さん、文ちゃん、吉松の3人が8月上旬に登った剣岳(2999m)。そのやや左に連なっている3つの山が立山三山だ。唐松岳からこれらの山々を望むことも今回の登山行の楽しみにしていたが、望みが叶って岡部さん、吉松は大いに気を良くした。



（剣岳を感慨深く眺んでいる岡部さんと吉松）





暫し回りの山々を眺めてから下山開始。
15分で唐松岳頂上小屋に着く。



小屋の裏の風が当たらない場所で一寸早めの昼食をとった。
カップラーメンにお湯、割りばしが付いて
500円也。持参のパンなどと合わせて食
べた。

できれば雨が降り始める前に五竜山荘に入りたかった。昼食もそこそこにして、11時には頂上山荘を後にした。

ここから暫く歩くと、「牛首」と呼ばれる峰のきつい下りとなる。道幅がせまく鎖場の通過もあって、やや難所である。雨、風が強い時には避けたい道だ。しっかり用心して移動した。





「牛首」を下ってホッと一息。
元気な雄さんも少々お疲れ気味か。



堀さんは下るときに左足の膝を岩にしこたまぶつけて、怪我をしてしまった。
幸い擦り傷程度で済んだが、岡部さんから応急の手当てをしてもらった。

「牛首」を過ぎてホッと一安心だ。足元の草花に目をやる余裕も出てきた。



シラタマノキの実



ハクサンシャクナゲ



ミヤマダイコンソウ



ハイマツ帯の登山道をあと15分くらいも歩けば五竜山荘に着く所まで来た。

山肌に斜めに切られた道筋を登りきった先に山荘がある。

天気がそろそろ怪しくなってきて、雨に合うかどうか微妙なタイミングだ。



結局、小屋まであと5、6分のところで雨。2時5分ごろ、傘をさして五竜山荘に飛び込んだ。

計画通りの時刻に到着した。



小屋の受付をしていると、「五竜岳に登るなら今日。明日はもっと天気が崩れて登頂が厳しくなる。」とのアドバイスがあった。

やっと五竜山荘に着いてホッとしたばかりではあったが、登頂を諦めるのはあとで余りにも未練が残りそうであった。雄さん、岡部さん、吉松3人はチャレンジすることに決断した。堀さんは無理はしないと断念。

3人は急ぎレインウェアを着用して、空身で2時間ほどの五竜岳山頂往復を断行することにした。

山荘から五竜岳山頂までの登山道は岩場、鎖場が多い。風が無いとは言え、雨の中の登山は厳しく細心の注意を要した。HP作成のために必要な肝心の写真はほとんど撮ることができなかつた。



山頂まで残り 10 分くらいのところで、やっと一息ついた。

岡部さんのバンザイ写真。

雄さんが大分遅れがちになってしまったが、後で聞けば水不足に加えてシャリバテ。喉はカラカラになるし、昼食が簡単すぎでエネルギーが尽きてしまったようだ。流石の雄さんも初めての体験だとか・・・。
それでも何とか頑張って、五龍岳山頂（2814m）に立つことができた。



あとは無事に山荘まで下るだけだ。幸い雨は降らなくなったが雲間に入って視界が悪い。道に迷わないよう、また岩場で滑ったりしないように細心の注意だけは怠らなかった。



山荘の前では、堀さんが心配して3人の下山を今や遅しと待っていてくれた。

(堀さん、ご心配をおかけしました！)



なにはともあれ五龍岳登頂を祝って乾杯！

夕食は山荘自慢のカレーライス。おかわり自由なので良く食べた。

山荘は混んではいたが、1人で布団一枚を占有することができるので充分である。



岡部さんと吉松は八月初旬に剣岳に登り、その山頂から唐松岳、五龍岳がよく見えました。一月後には唐松岳、五龍岳から剣岳、立山三山を見ようと楽しみにしていましたが、幸いに唐松岳山頂から剣岳、立山の偉容を眺めることが出来て大いに満足しました。

五竜山荘の受付で促されて、雨の中ではありましたがあが五龍岳山頂も極めました。遅い時刻からの登山行動で少々無謀だったかもしれません、今回の登山行の目的を達成したという気持ちです。

早めに前線が動いてくれれば、明日の遠見尾根の下りも楽しめるのではないかと淡い期待を持ちながら、床に就きました。